



直方南小学校だより

令和7年7月7日(月)
直方市立直方南小学校
No.16 校長 塩田 朋久

直方南小学校のあゆみ⑧ ～貝島太助と南校～

百年史の中で、学校のために寄付や寄贈した方々の名前の中に、「貝島太助」という名前が何度も出てきます。私もなんとなく聞いたことのある程度でしたが、調べてみるとすごい人でした。貝島太助をはじめ、その一家の方々から、講堂（体育館の役割）、ピアノ、プールなどを本校に寄贈してもらっています。今の金額にすると・・・総額で「億」は余裕で超えています・・・。どのような人物だったのか、以前「市報のおがた」に掲載されていた内容を抜粋してみます。

貝島なくして、今の直方なし。



貝島は、麻生、安川と並ぶ筑豊御三家の一人であり、直方市の発展に大きく貢献した炭鉱王です。あの文豪・森鴎外が会った際に「五十歳ばかりの偉丈夫（いじょうふ）なり」と評したほど。中村学園創設者・中村ハルも、1902年に直方高等小学校へ教師として赴任したとき「貝島太助氏一家の豪勢ぶりは、まるで一国の殿様扱いでした」と述べています。

しかし、貝島太助は、生まれながら裕福だったわけではありません。貝島は1845年、直方市内の貧しい農家に生まれました。苦しい家計を助けるために、8歳の頃から坑内で働き始めたといわれています。時代は、江戸から明治に移り、貝島は炭鉱経営に乗り出しました。しかし、順風満帆ではなく、幾度も経営危機が発生。それでも貝島はあきらめることなく、何度も立ち上がりました。1894年、日清戦争が勃発。石炭の価格の暴騰で巨利を獲得。1898年には貝島鉱業を設立しました。

明治から大正にかけて、直方の発展は、貝島とともにありました。貝島鉱業の本店は殿町に置かれ、その周囲には購買所・倉庫・社宅が建ち並びました。貝島町と呼ばれるほどのパワーが、まちの発展を後押ししたのです。

貝島が残したものは、他にもあります。当時、水害の多かった遠賀川の改修工事を推進。自ら莫大な私財を拠出して、工事を支えたといわれています。また、私立小学校や日若座（劇場）の設立など、教育・文化の面でも尽力しました。（中略）

貝島太助の自宅は、現在の多賀町公園にありました。木造作りの3階建てで、当時としては豪邸でした。現在、園内にはその功績をたたえた貝島太助像が設置されています。実は、この銅像、長崎の「平和祈念像」を製作した彫刻家・北村西望が手がけたもの。像の台座背面にある碑文には、貝島が実現してきた業績が熱く語られています。

すごい人物が直方で活躍していたのですね。当時の南小、相当お世話になってます。感謝感謝ですね！